

## 技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 安全・防災 <input type="checkbox"/> インフラDX <input type="checkbox"/> 維持管理 <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> コスト <input type="checkbox"/> 品質                    (該当分類に○を付記)		
技術名称	マルチフラップゲート(無動力減災ゲート)	担当部署	開発部
NETIS登録番号		担当者	桑原 直樹
社名等	中大実業株式会社	電話番号	011-624-0455
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	当製品は、堤防にある樋門の川裏側に設置できるゲートです。急なゲリラ豪雨などの増水時で川表のゲートの補助と機能性アップし災害時の操作員の安全確保をする目的で考案されました。河川の樋門や樋管に設置されているゲートの管理は、大雨が降る度に昼夜関係なく人力で操作していました。昨今では管理人を不要とする無動力自動開閉ゲートも登場していますが、多額の予算がかかる大規模な工事が必要で、採用が困難なケースもありました。災害対策が急がれる今、従来のゲートはそのままに、新しく川裏側に低コストで簡単に設置することができるのが、当製品「マルチフラップゲート」です。		
	2. 技術の内容		
	<b>【製品の特長】</b> ① ゲートがフラップなので、ゲートの開閉作業が不要です。突然の出水でも川裏側で水を止めることができます。通常時は開いているので水の流れを阻害しません。 ② ゲートが分割されていて軽量となっているので、現場施工時のクレーン等は不要で人力のみで施工可能です。 ③ 大雨時の最大水位でフロートが停止するので、安全に水位を計測することができます。また、リアルタイムの水位を見ることができる量水標機能付きです。		
	3. 技術の効果		
・既設の樋門はそのまま、災害対策することができます。 ・本来動かすべきメインのゲートが何かしらの不具合で動かなくなった場合や、突然のゲリラ豪雨などの緊急時に早急な操作が困難である場合に効果を発揮します。 ・ゲートの軽量化により、工事時に大型クレーン等の準備が不要になるので、工費の縮減が可能です。 ・ゲートの操作が不要なので、夜間の操作が不要になり安全性の確保ができ、維持の作業手間を縮減することが可能です。			
4. 技術の適用範囲			
・1,000mm以下の樋門・樋管 ・川表側のゲートが引き上げ式ゲートの小規模の樋門・樋管			
5. 活用実績			
国の機関    0 件 (九州    0件、九州以外    0件 ) 自治体        1 件 (九州    0件、九州以外    0件 ) 民間            0 件 (九州    0件、九州以外    0件 )			

6. 写真・図・表



写真-1 設置例



写真-2 納品時荷姿

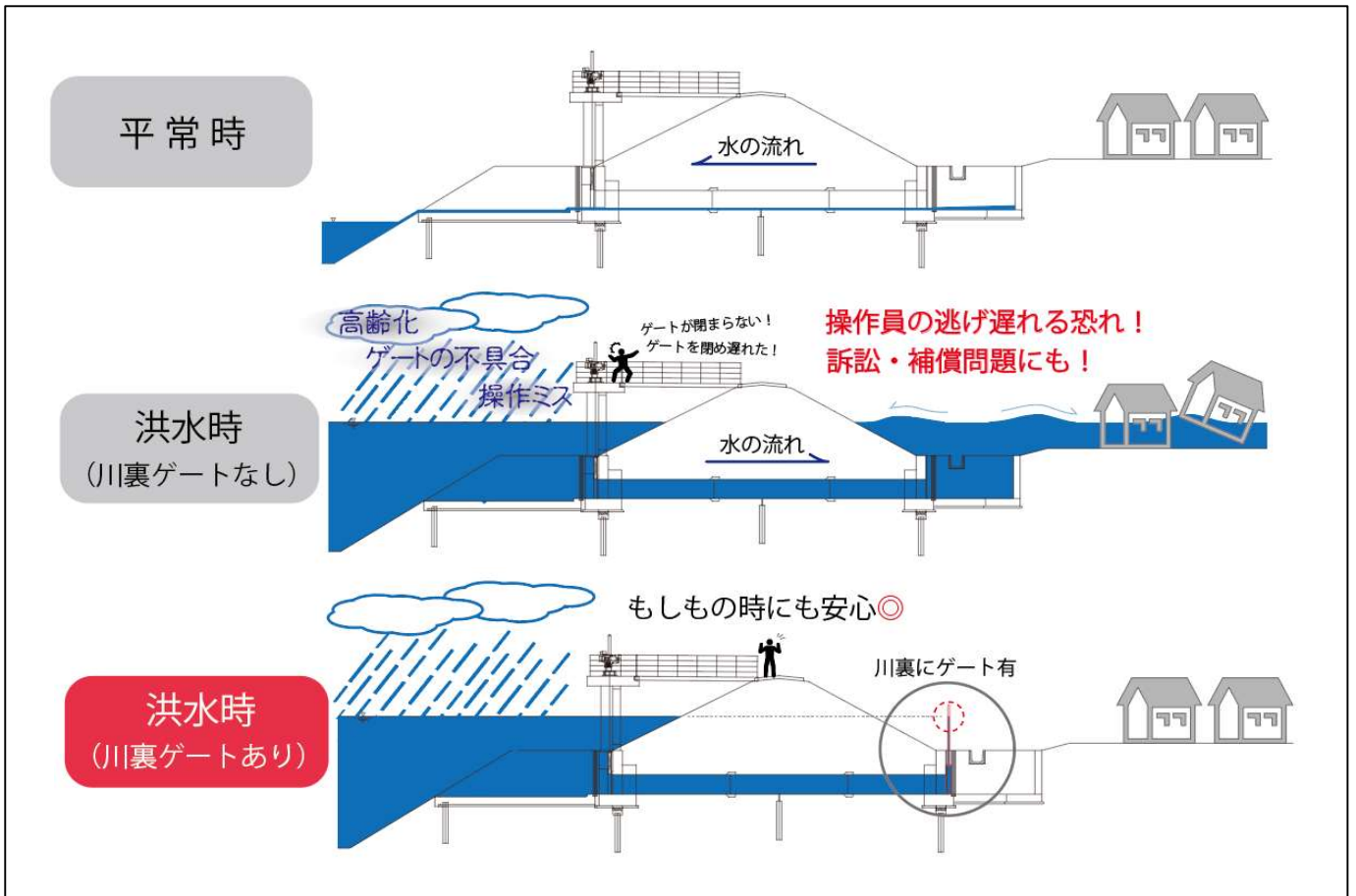


図-1 概要



YouTube

製品の説明動画公開中

